

幼稚園等中堅教諭等資質向上研修実施要項

1 目 的

中堅教諭等資質向上研修は、平成28年11月28日法律第87号をもって公布された「教育公務員特例法等の一部を改正する法律」第24条の規定に基づき、教職経験者10年研修を改め、個々の能力、適正等に応じて、公立の幼稚園等における教育に関し相当の経験を有し、教育活動や学校運営において中核的な役割を果たすことが期待される中核教諭等に対して、その職務を遂行する上で必要な事項に関する研修を実施し、資質の向上を図ることを目的とする。

2 対 象

(1) 研修対象教員（以下「対象者」という。）は、次のとおりとする。

ア 市町村立幼稚園等及び岩手県公立学校の教諭等で、原則として、毎年度4月1日現在の在職期間が10年を経過した者

イ 前年度までの該当者で、研修を受けていない者

(2) 中堅教諭等資質向上研修の対象から、次に掲げる者を除くものとする。

ア 臨時的に任用された者

イ 他の任命権者が実施する当該経験者研修を受けた者

ウ 地方公務員法、地方公務員の育児休業等に関する法律又は地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律の規定により任期を定めて採用された者

エ 指導主事、社会教育主事等その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する事務に従事した経験を有する者で、任命権者が当該者の経験の程度を勘案して、中堅教諭等資質向上研修を実施する必要があると認める者

(3) 在職期間は、次のとおりとする。

ア 国立、公立又は私立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び幼稚園等（以下「小学校等」という。）の教諭等として在職した期間（臨時的に任用された期間を除く。）を通算した期間とする。

イ 指導主事、社会教育主事等として学校教育又は社会教育に関する事務に従事した期間があるときは、その期間は当該在職期間に通算するものとする。

ウ 在職期間のうちに次に掲げる期間が引き続き1年以上あるときは、その期間の年数（1年未満の端数があるときは、これを切り捨てた年数）を当該在職期間から除くものとする。

① 休職又は停職により現実に職務を執ることを要しない期間

② 職員団体の役員として専ら従事した期間

③ 育児休業をした期間（産前・産後休暇を含む）

④ 私立の学校の教諭等として在職した期間について、①又は③の期間に準ずるものとして岩手県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が認める期間

⑤ 負傷又は疾病による休暇を取得した期間及び国外勤務を命ぜられた配偶者に随伴するために職務に専念する義務を免除された期間

(4) 研修を実施する年度

在職期間が10年に達した年度の次の年度とする。ただし、以下のア、イ、ウなど教育長が特別な事情があると認めた場合は、この限りでない。

ア 学校種ごとに在職期間が10年に達した教諭等の状況に違いなどがあるため、学校種ごとに異なる年数を定めることが適切な場合

イ 対象となる教諭等の数が多いため、本来研修を実施すべき時期に一斉に実施することが困難であり、一部の教諭等について実施時期を早める又は遅らせることが適切な場合

ウ 対象となる教諭等が配置されている幼稚園等の状況などにより、本来研修を実施すべき時期に実施することが困難であるため、実施時期を早める又は遅らせることが適切な場合

(5) 研修を受けることができない者の取扱い

育児休業等により、研修を実施する年度に研修を受けることができない者については、当該事由がなくなる日の属する年度の次の年度に実施するものとする。

3 研 修

中堅教諭等資質向上研修において実施する研修は、次の表のとおりとする。

		日 数	研修の種類	期 日 等
幼稚園等	1 園内研修	10日間	園内における研修	各園が定めた日
	2 園外研修	3日間	(1) 総合教育センター研修	総合教育センターが定めた日
		2日間	(2) 教育事務所研修 公開研究会参加研修	各教育事務所が定めた日
		2日間以上	(3) 選択研修	同 上

4 評価及び研修計画書の作成等

- (1) 園長等は、県教育委員会が定めた評価基準に基づき、対象者ごとに評価案（様式1）、研修計画書案（様式2）及び（様式3）を作成し、当該幼稚園を所管する教育委員会に提出する。
- (2) 園長等から提出された評価案及び研修計画書案に基づき、対象者一人一人の専門性の向上や得意分野の伸長など、対象者のニーズに応じたものとなるよう、当該幼稚園を所管する教育委員会が、必要な調整を行った上で、対象者に係る評価を行い、研修計画を決定し、園長等に通知する。
- (3) 市町村教育委員会は、(2)により決定した評価及び研修計画書の写しを教育事務所を通じて、県教育委員会に提出する。
- (4) 園長等は、対象者に対して、研修計画に基づき、中堅教諭等資質向上研修を受けるよう職務上の命令を発する。
- (5) 園長等は、中堅教諭等資質向上研修終了後に、再度、評価を行い、中堅教諭等資質向上研修事後評価（様式4）及び年間研修報告書（様式5）を当該幼稚園を所管する教育委員会に提出する。
- (6) 市町村教育委員会は、(5)の中堅教諭等資質向上研修事後評価及び年間研修報告書の写しを教育事務所を通じて、県教育委員会に提出する。

5 園内における指導体制

- (1) 園内における研修は、園長の指導の下、指導力の優れた教員、指導主事等が対象者の保育等に対して指導及び助言を行うものとする。
- (2) 園長は、園務分掌等に支障が生じないように、また、研修の時間を十分にとることができるよう、園務分掌等において十分に配慮を行うものとする。

6 提出書類

園長は、以下の書類をそれぞれに定める期日までに当該幼稚園を所管する教育委員会に提出する。

- (1) 毎年5月末日までに提出するもの
 - ア 「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」（様式1）
 - イ 「中堅教諭等資質向上研修計画案」（様式2）（様式3）
- (2) 毎年2月末日までに提出するもの
 - ア 「中堅教諭等資質向上研修事後評価」（様式4）
 - イ 「中堅教諭等資質向上研修年間研修報告書」（様式5）

7 補則

この要項に定めるもののほか、中堅教諭等資質向上研修の実施に関し必要な事項は、県教育委員会教育長が定める。

附則

この要項は、平成15年4月1日から施行する。

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

中堅教諭等資質向上研修 研修全体のイメージ図（幼稚園）

一
学
期

評価・研修計画書の作成	
	○ 園長が、研修対象者ごとの保育等の状況等を基に評価を実施 (教頭、副園長、主任、ベテラン教員、指導主事等の協力を得つつ実施)
	○ 園長が、研修対象者ごとに、評価案及び個々の能力や適性等に応じた研修計画書案を作成し、 所管する教育委員会に提出 (作成に当たり、研修対象者から自己評価や研修への意見・希望を聴取)
	○ 教育委員会は、園長から提出された評価案及び研修計画書案について調整し、決定



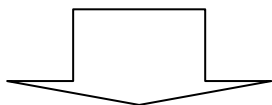
主
に
夏
季
・
冬
季
休
業
期
間
中

園外研修（総合教育センター、教育事務所等 7日間以上）	
総合教育センター研修 (3日間)	○ 共通研修 ○ 保育専門研修 ○ 時代に応じて必要とされる研修
教育事務所研修 「公開研究会参加研修」 (2日間)	○ 教科指導等研修 各公開校公開日 (1日間): 学校公開研究会に参加 (異校種への参加が望ましい) 各教育事務所の研修日 (1日間): 学校公開参加を中心とした各教育 事務所における研修
選択研修 (2日間以上)	○ 保育専門研修 ○ 時代に応じて必要とされる研修などから、研修対象者ごとに、研修 講座等を選択



二
・
三
学
期

園内研修（10日間）	
	○研究保育を実施 (指導計画作成、環境構成、保育実践の流れを園長等が観察・評価し、指導助言を行う)
	○課題研究を実施 (特定のテーマについて、各研修対象者が研究を行い、園内で発表会を実施し、園長等が助言 を行う)
	○その他園内で実施される研究会・研修会等を通じた研修を実施



年
度
末

研修成果の評価	
	○ 園長は、研修対象者の保育等の状況等を基に、年間の研修成果の評価を行い、その結果を 教育委員会に報告 (評価結果は、研修対象者に知らせるとともに、今後の指導や研修に活用していく)

令和2年度中堅教諭等資質向上研修の内容（幼稚園）

園内研修	（年間10日間）
------	----------

研修対象者の所属園の園長が、当該園等の実情に応じ、一年を見通した研修計画を作成し、所管する教育委員会が決定したもの

園外研修	（年間7日間以上）
------	-----------

(1) 総合教育センター研修（3日間）【講座番号：1201】

期日：令和2年7月20日（月）～7月22日（水）

会場：県立総合教育センター

研 修 内 容	
○講義	幼稚園等中堅教諭等に望むこと
○講義	幼児期の教育の現状と課題
○講義・演習	カウンセリングを生かした幼児や保護者との関係づくり 特別な支援を必要とする幼児の理解と支援の在り方 幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメント 幼稚園等における子育ての支援 幼児理解と保育の構想 ー指導計画の作成と保育の展開ー 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる保育の実践 幼小の円滑な接続
○研究協議	よりよい幼児期の教育を目指して

(2) 教育事務所研修「公開研究会参加研修」（2日間）

- ・各教育事務所管内で開催される学校公開研究会に参加し、参観した成果等を基に各教育事務所で研修を行うもの
- ・参観先の学校は、研修対象者の園長が選択し、所管する教育委員会が決定する
- ・参観後に実施する教育事務所研修は、各教育事務所が定める

各公開校の公開日（1日間）	各教育事務所の研修日（1日間）
○学校公開研究会への参加 （学校公開研究会の内容については、各教育事務所発行の「令和2年度教育の方針と計画」参照）	○参観した成果、一年間の研修の成果等をレポートにまとめ、それを基に研究協議を行う

(3) 選択研修（2日間以上）

- ・県教育委員会、総合教育センター、各教育事務所及び各市町村教育委員会が主催するもの、並びに、各研究団体等の研究大会や研修会、大学で設定した講座等で、県教育委員会が共催又は後援を承認しているものの中から、園長が選択し、所管する教育委員会が決定したもの

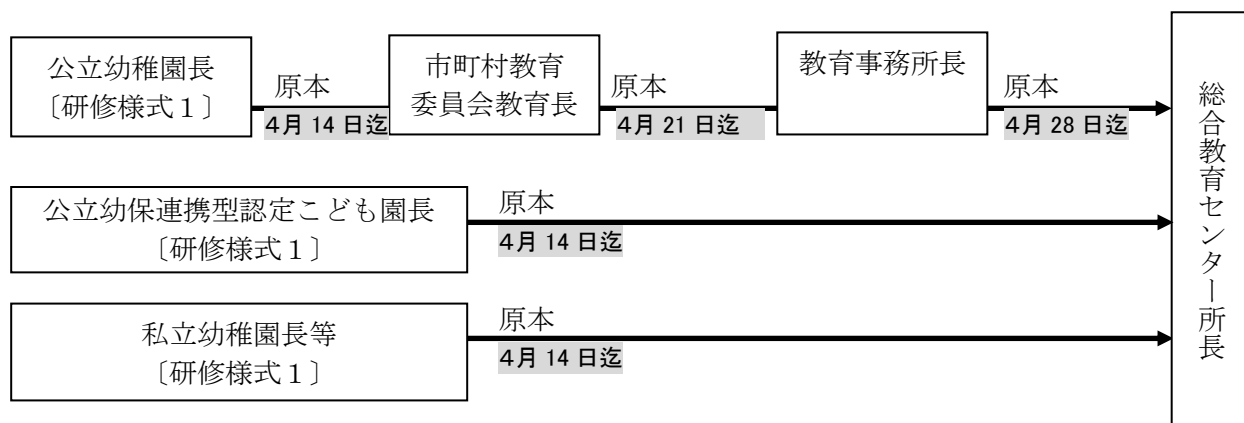
園外研修（総合教育センター研修）の申し込み方法等について

1 受講について

- ・公立幼稚園教諭及び公立幼保連携型認定こども園保育教諭は、悉皆研修（該当者は全員）とし、全講座を受けること。
- ・私立幼稚園教諭等は、園長等の判断による希望研修とするが、可能な限り全講座を受けることが望ましい。
- ・幼稚園教育要領に基づいた内容が中心であること。

2 申し込み方法

公立幼稚園長は、所管する市町村教育委員会教育長宛てに令和2年4月14日（火）までに、公立幼保連携型認定こども園長及び私立幼稚園長等は、直接総合教育センター所長宛てに令和2年4月14日（火）までに原本を提出すること。



3 その他

- ・様式は、岩手県教育委員会発行の「教職員研修の手引」の〔研修様式1〕を用いること。
- ・〔研修様式1〕の「講座番号」及び「講座名」の欄には、受講する全ての講座を記入すること。（1人の受講者につき1枚）
- ・決定通知は、上記の手続き完了後、講座開始2週間前には本人宛通知するものであること。
- ・研修者がやむを得ない理由（病気等）により欠席する場合は、所属長から県立総合教育センター所長宛てに、「教職員研修の手引き」の〔研修様式3〕により、欠席届を提出すること。（公立幼稚園は、所管する市町村教育委員会、教育事務所を経由して提出する。公立幼保連携型認定こども園及び私立幼稚園等は、直接県立総合教育センター所長宛てに提出する。）

- ・申し込み及び問い合わせ先

岩手県立総合教育センター 〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1 0198-27-2711(代)

【幼稚園等中堅教諭等資質向上研修講座担当】

教科領域教育担当 TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

各幼稚園が作成し教育委員会に提出する評価案・研修計画書案作成上の留意事項等

1 評価案・研修計画書案作成上の留意事項

- (1) 園長は、中堅教諭等資質向上研修のねらいを踏まえ、県教育委員会が作成した評価基準に基づいて、教頭、副園長、主任、指導主事等の協力を得るなどして、「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」(様式1)及び「中堅教諭等資質向上研修計画書案」(様式2)(様式3)を作成する。

中堅教諭等資質向上研修のねらい

【教職専門の充実・向上】

学級・学年経営、学習指導及び生徒指導等を広い視野に立って推進できるよう教職専門性の向上を図る。

- 評価基準
- A 教職10年を経過した教諭として求められる程度以上に、優れている
 - B 教職10年を経過した教諭として求められる一般的な程度を十分に満たしている
 - C 教職10年を経過した教諭として求められる一般的な程度を満たしている
 - D 教職10年を経過した教諭として求められる一般的な程度を満たしていない

「評価区分」に関連して、伸ばすべき優れた点や改善すべき点など、中堅教諭等資質向上研修を実施するうえで留意すべき事項を「その他記入欄」に記入する。

なお、園長は、その内容が各幼稚園の状況等に応じ、対象となる教諭等の評価項目とすることができないと判断する場合には、当該項目について評価しないことができる。その際、「その他記入欄」に、評価をすることができない理由について記入する。

- (2) 園長が、「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」及び「中堅教諭等資質向上研修計画案」の作成に当たり、教諭等自身に自己評価を行わせ、それを聴取することや、教諭等の意見や希望を参考として聴取することは、教諭等自身に自らの課題や適性、得意分野等を再認識させ、研修意欲を喚起するとともに、研修内容をより適切なものとするうえで望ましい。

ただし、「中堅教諭等資質向上研修に係る評価」及び「中堅教諭等資質向上研修計画」の作成は、任命権者の権限と責任において行うべきものであり、本人の自己評価や意見等をそのまま取り入れることは不適切である。

- (3) 教育委員会によって決定された「中堅教諭等資質向上研修に係る評価」及び「中堅教諭等資質向上研修計画」については、教諭等自身が、自らの課題を明確に認識して研修に取り組むために、園長が教諭等に示して説明することが望ましい。

- (4) (2) 及び (3) を踏まえると、「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」及び「中堅教諭等資質向上研修計画書案」の作成に当たっては、次の手順が考えられる。

- ① 「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」の評価項目を基に、教諭等が自己評価を行う。
- ② 園長は、教諭等が行った自己評価を基に、研修内容の希望等について聴取を行う。
- ③ その後、園長は、教頭、副園長、主任、ベテラン教員、指導主事等の協力を得つつ「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」及び「中堅教諭等資質向上研修計画書案」を作成する。
- ④ 作成した「中堅教諭等資質向上研修に係る評価案」及び「中堅教諭等資質向上研修計画書案」を教諭等に示して説明する。

2 研修終了後の留意事項

中堅教諭等資質向上研修終了後も、引き続き中堅教諭等資質向上研修を受けた教諭等の資質の向上を図っていくため、研修終了後に、再度評価を行い、その結果を当該教諭等に対する今後の指導や研修に活用していくことが望ましい。また、この評価の結果についても、必要に応じて教諭等に示して説明することも考えられる。

なお、中堅教諭等資質向上研修終了時における評価は、上記の趣旨から行われるものであり、その評価結果が勤務評価につながるものではない。

3 実施手続き上の留意事項

ア 園外研修について

教育事務所「公開研究会参加研修」

- ・ 参観先の学校については、園長が、学校公開参加手続きを行うこと。

イ 園長が、対象となる教諭等に対し、「中堅教諭等資質向上研修計画」に基づき、中堅教諭等資質向上研修を受けるよう職務上の命令を発する。

関係法令（教育公務員特例法等の一部を改正する法律 平成28年11月28日法律第78号）

第二十四条 公立の小学校等の教諭等（臨時的に任用された者その他の政令で定める者を除く。

以下この項において同じ。）の任命権者は、当該教諭等に対して、個々の能力、適正等に応じて、公立の小学校等における教育に関し相当の経験を有し、その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図るために必要な事項に関する研修（以下「中堅教諭等資質向上研修」という。）を実施しなければならない。

- 2 任命権者は、中堅教諭等資質向上研修を実施するに当たり、中堅教諭等資質向上研修を受ける者の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、当該者ごとに中堅教諭等資質向上研修に関する計画書を作成しなければならない。

中堅教諭等資質向上研修に係る評価案（幼稚園）

幼稚園名 _____

園長名 _____ 印

1 研修対象者氏名

2 評 価

評 価 区 分	評 価 項 目	評 価
1 幼児の指導 (1) 指導計画 (2) 環境の設定 (3) 保育の方法・ 展開	① 教育課程を具体化して、長期的見通しをもった計画とそれに関連した適切な週、日案などの計画を作成している。	A B C D
	② 幼児一人一人の理解と発達状況に対応した指導計画を作成している。	A B C D
	③ 日々の保育の記録をとり、その検討結果を教員間で話し合い、次の指導計画に生かしている。	A B C D
	① 幼児一人一人の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる遊具、用具、素材などを適切に準備し配置している。	A B C D
	② 自然環境、季節の変化、地域の特徴や人材などを生かす保育の場を設定している。	A B C D
	③ 幼児の活動が充実するよう的確に環境を再構成できる。	A B C D
	① 個々の幼児の特性を理解し、幼児同士の関係を的確に把握している。	A B C D
	② 幼児と共に活動することを心から楽しんでいる。	A B C D
	③ 幼児と共感し、満足感や心の安定を与えている。	A B C D
	④ 活動の中で、善悪の判断、思いやりの気持ちなどを、適切な言葉と行動で示している。	A B C D
	⑤ 集団と個の関係の中で、一人一人に応じた適切な援助を行っている。	A B C D
	⑥ 特別な教育支援の必要な幼児について理解し、適切な援助を行っている。	A B C D
【その他記入欄】		

園長名 印

幼稚園名

園長名 印

- (1)

(2)

(3)

(4)

(5)

- ### 3 年間研修計画（7日間以上）

[illegible]

※研修の種類は、次の3つから選び記入すること

①センター研修 ②教育事務所研修「公開研究会参加研修」 ③選択研修

中堅教諭等資質向上研修事後評価（幼稚園）

幼稚園名 _____

園長名 _____ 印

1 研修対象者氏名

2 評 価

評 価 区 分	評 価 項 目	事前評価	事後評価
1 幼児の指導 (1) 指導計画 (2) 環境の設定 (3) 保育の方法・展開	① 教育課程を具体化して、長期的見通しをもった計画とそれに関連した適切な週、日案などの計画を作成している。		A B C D
	② 幼児一人一人の理解と発達状況に対応した指導計画を作成している。		A B C D
	③ 日々の保育の記録をとり、その検討結果を職員間で話し合い、次の指導計画に生かしている。		A B C D
	① 幼児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる遊具、用具、素材などを適切に準備し配置している。		A B C D
	② 自然環境、季節の変化、地域の特徴や人材などを生かす保育の場を設定している。		A B C D
	③ 幼児の活動が充実するよう的確に環境を再構成できる。		A B C D
	① 幼児一人一人の特性を理解し、幼児同士の関係を的確に把握している。		A B C D
	② 幼児と共に活動することを心から楽しんでいる。		A B C D
	③ 幼児と共感し、満足感や心の安定を与えている。		A B C D
	④ 活動の中で、善悪の判断、思いやりの気持ちなどを適切な言葉と行動で示している。		A B C D
	⑤ 集団と個の関係の中で、一人一人に応じた適切な援助を行っている。		A B C D
	⑥ 特別な教育支援の必要な幼児について理解し、適切な援助を行っている。		A B C D
【その他記入欄】			

<p>2 学級経営</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 保護者への対応</p>	<p>① 一人一人の幼児を学級の一員として大切にすることにより、幼児同士も互いを大切にする学級になっている。</p> <p>② 皆で協力し合うことの楽しさや責任感、仲間意識等を培っている。</p> <p>③ 施設設備の安全管理に配慮し、幼児への安全指導が適切である。</p> <p>① 家庭との連携が緊密で、幼児の入園前や、家庭での生活の様子もよく把握し保育に生かしている。</p> <p>② 保護者と話をする機会をできるだけ設け、保育に生かすとともに子育ての相談相手になっている。</p> <p>③ 事故・問題などが起きた場合の保護者への説明、対応が迅速で的確である。</p>		<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>【その他記入欄】</p>			
<p>3 その他</p> <p>(1) 家庭・地域連携</p> <p>(2) 園務</p> <p>(3) 向上心</p>	<p>① 家庭や地域への情報提供に努めるなど、機会をとらえて幼稚園を理解してもらうように努力している。</p> <p>② 地域の行事に積極的に参加しようと努力している。</p> <p>① 園全体の運営方針・目標を把握し、職務全般に反映させている。</p> <p>② 園内における報告、連絡、相談が適切に行われている。</p> <p>① 研修会等に積極的に参加し、研修成果を実践に生かしている。</p> <p>② 自分の保育の評価を適切に行い、改善を図っている。</p>		<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>【その他記入欄】</p>			
<p>【全体のまとめ】 (評価のまとめ、研修成果が得られたと思われる事項、今後、さらに研修が必要と思われる事項等)</p>			

幼稚園名

園長名 _____ 印 _____

2 年間研修内容等（研修内容ごとに、成果及び課題をまとめること）

[illegible][illegible]

- 14 -